

本資料は、米国アッヴィ社が 2018 年 7 月 27 日(米国時間)に発表したプレスリリースの日本語抄訳版です。資料の正式言語は英語であり、その内容および解釈については英語が優先します。本資料の詳細(英文)については、<https://news.abbvie.com/news/press-releases/abbvie-receives-us-fda-approval-orilissa-elagolix-for-management-moderate-to-severe-pain-associated-with-endometriosis.htm> をご覧ください。なお本文中には日本未承認薬、未承認適応症に関する情報が含まれています。

PRESS RELEASE

2018 年 8 月 2 日

アッヴィ、2018 年度第 2 四半期の業績を発表

- 第 2 四半期の希薄化 EPS は GAAP ベースで 1.26 ドル、調整後希薄化 EPS は前年同期比 40.8% 成長の 2.00 ドル
- 第 2 四半期の売上高は GAAP ベースで 82 億 7,800 万ドル、調整後売上高は営業ベースで前年同期比 17.1% 増の 82 億 5,800 万ドル
- 第 2 四半期のヒュミラ®の全世界での売上高は、報告ベースで 10% 増、営業ベースで 8.2% 増の、51 億 8,500 万ドル
- 第 2 四半期のイムブルピカ®*の全世界での売上高は 35.6% 増の 8 億 5,000 万ドル
- 第 2 四半期の C 型肝炎治療薬(HCV)の全世界での売上高は、9 億 7,300 万ドル
- 米国において、ペネトクラクスが再発/難治性の慢性リンパ性白血病の適応で承認取得および未治療の急性骨髄性白血病の適応で申請、またイムブルピカ®がワルデンシュトレームマクログロブリン血症の適応で申請と、血液がん領域のポートフォリオが大きく前進
- 米国において、婦人科領域では、ORILISSA (elagolix)が子宮内膜症の適応で承認取得。また、免疫領域ではパイプラインの後期段階にある、リサンキズマブが乾癬の適応で申請
- 2018 年度 GAAP ベースの希薄化 EPS の見通しを 6.47~6.57 ドルへ修正。2018 年度の調整後希薄化 EPS の見通しを 7.66~7.76 ドルから、中間値で前年比 39.5% の成長となる 7.76~7.86 ドルへ修正

*日本ではヤンセンファーマ株式会社が販売

米国イリノイ州ノースシカゴ(2018 年 7 月 27 日)ーアッヴィ(NYSE: ABBV)は、2018 年度第 2 四半期(2018 年 6 月 30 日終了)の業績を発表しました。

会長兼 CEO のリチャード・A・ゴンザレスは、次のように述べています。「今期も好業績を収めることができ、今年に入ってから事業は順調に進捗を遂げていることに非常に満足しています。営業および研究開発活動を強力に推進し、再び収益が期待を上回る結果となりました。主にヒュミラ®、イム

ブルビカ[®]、マヴィレット[®]の成長が、この結果に貢献しました。上半期の業績と当社の事業に大きな自信を持って、3度目となる2018年通年のEPSガイダンスを上方修正します」

第2四半期の業績

- 第2四半期の全世界での売上高はGAAPベースで、前年同期比19.2%増の82億7,800万ドルでした。調整後売上高は、為替レート変動による1.8%のプラスの影響を除く、営業ベースで17.1%増の82億5,800万ドルでした。
- ヒュミラ[®]の全世界での売上高は、報告ベースで10.0%増加し、為替レートの変動による1.8%のプラスの影響を除くと、営業ベースで8.2%増でした。第2四半期の米国内でのヒュミラ[®]の売上高は10.0%増でした。米国外でのヒュミラ[®]の売上高は、為替レート変動による5.4%のプラスの影響を除くと、4.4%増でした。
- イムブルビカ[®]の全世界での売上高は、35.6%増の成長となる8億5,000万ドルで、そのうち米国内の売上高は6億9,300万ドル、米国外利益分配が1億5,700万ドルでした。
- 第2四半期のHCVの全世界での売上高は、9億7,300万ドルでした。
- 第2四半期の売上総利益率はGAAPベースで76.6%でした。調整後売上総利益率は80.5%でした。
- 売上高に占める販売費および一般管理費の割合は、GAAPベースで21.3%でした。調整後の売上高に占める販売費および一般管理費の割合は19.9%でした。
- 売上高に占める研究開発費の割合は、GAAPベースで16.0%でした。調整後の研究開発費の割合は、パイプラインへの投資を反映し、15.3%となりました。
- 第2四半期におけるGAAPベースの営業利益率は33.4%でした。調整後営業利益率は45.3%でした。
- GAAPベースの支払利息は2億7,200万ドルでした。第2四半期におけるGAAPベースの税率は1.5%、調整後の税率は9.0%でした。
- 第2四半期における希薄化EPSは、GAAPベースで1.26ドルでした。調整後希薄化EPSは、特定項目を除き、40.8%増の2.00ドルでした。

アッヴィについて

アッヴィは、世界で最も複雑かつ深刻な疾患に対する革新的な先進治療薬の開発に努めるグローバルな研究開発型のバイオ医薬品企業です。その専門知識、献身的な社員、イノベーション実現に向けた独自の手法を通じて、自己免疫疾患、がん、C型慢性肝炎などのウイルス感染症およびニューロサイエンスの4つの主要治療領域での治療を大きく向上させることをミッションに掲げています。世界中の人々が持つ健康上の課題への解決策を進歩させるため、75カ国以上の国でアッヴィ社員が日々取り組んでいます。アッヴィの詳細については、www.abbvie.com をご覧ください。Twitterアカウント [@abbvie](https://twitter.com/abbvie)、[Facebook](https://www.facebook.com/abbvie) や [LinkedIn](https://www.linkedin.com/company/abbvie) でも情報を公開しています。

日本においては、アッヴィ合同会社の約 1,050 人の社員が、医療用医薬品の開発や販売に従事しています。自己免疫疾患、新生児、肝疾患、ニューロサイエンスの各領域を中心に、患者さんの生活に大きく貢献できることを願っています。詳しくは、www.abbvie.co.jpをご覧ください。

アッヴィ 今後の見通しに関する陳述

本リリースにおける記載には、1995 年米国私募証券訴訟改革法に示される「今後の見通しに関する陳述」が含まれています。「確信」「期待」「予測」「計画」という言葉およびそれに類する表現は、一般に将来予想に関する陳述となります。当社からの注意喚起として、このような将来予想に関する陳述はリスクおよび不確実性による影響を受け、実際の結果と将来予想に関する陳述での予測との間に大幅な相違が生じる可能性があります。このようなリスクおよび不確実性には、知的財産に対する脅威、他社製品との競合、研究および開発プロセスに特有の困難、敵対的訴訟または政府による介入、業界に関連する法律および規制の変更などがあります。

アッヴィの経営に影響を及ぼす可能性のある経済、競合状況、政府、科学技術およびその他の要因については、SEC に提出済みのアッヴィの 2017 年度アニュアルレポート(10-K 書式)の 1A 項「リスク要因」に記載しています。アッヴィは、法律で要求される場合を除き、本リリースの発表後に発生した出来事または変化によって、今後の見通しに関する陳述を更新する義務を負わないものとします。